

令和3年度（第32回）
研究助成・事業助成・
ボランティア活動助成
事業取り組みのご紹介

生命を脅かす病気で在宅療養し
ているこどもの希望を叶える、
こどもホスピスルーム事業

NPO法人 東京こどもホスピスプロジェクト



事業紹介

令和3年度研究助成・事業助成・ボランティア活動助成の取り組み報告が上がってきました。

そのうち、事業での取組みをされた「NPO法人東京こどもホスピスプロジェクト」代表の佐藤良絵さんをご訪問させていただきました。

事業テーマ

『生命を脅かす病気で在宅療養しているこどもの希望を叶える、こどもホスピスルーム事業』



助成を受けて実施した事業内容

小児がんや難病で在宅療養をすることで子ども達と家族に楽しみや喜びを感じてもらえ、病児が安心して過ごし、夢や希望を叶えられる場所として、こどもホスピスルームを開設されました。

東京都あきる野市にある「あきるの杜きずなクリニック」院長よりクリニックの1室の提供を受け、2022年1月より『ドリームルーム』という名称で実際の活動を開始しています。



実際の様子

ドリームルームでは、部屋を飾り、おもちゃなどが用意され、病児がリラックスして遊べる場所となっています。

病気の子どもの夢や希望を叶えるために、「ドリームルーム10の夢」というシートを作成し、病児やその親に記入してもらい、スタッフとともに夢の実現をめざして活動を行っているそうです。





訪問を終えて

代表の佐藤さんは、息子さんががんに罹患され、つらい治療を続ける中で、勉強や成長期に必要な遊び、友達との交流、息子さんが希望することをどう叶えるかを考えた時に、日本にはそのような希望を叶える制度やシステムがないことを痛感したそうです。

USAの小児がんの支援活動を見学に行かれ、がんと闘っている子どもたちへの手厚い支援に驚いた経験を話してくださいました。

お話を聞き、日本はがん治療自体は進んでいるものの、治療による学習環境低下や生活への影響を最小限にするための支援が十分に機能していない、または、その支援自体がないという現状に改めて驚きました。

公益財団として、今後何かできるかを考えていきたいと思います。

フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団

常務理事 澤本 美佐緒

佐藤良絵さんの息子さん
息子さんの笑顔がこの活動の原動力です ●